

(平成2~~7~~8年度実施分)

大学機関別選択評価
評価実施手引書

機構評価担当者用

独立行政法人
大学評価・学位授与機構

③ ②の判断の根拠を「観点の分析状況」として記述し、観点到係る状況の中の不明な点や判断を保留した点を「確認事項」として整理します。

④ 観点到ごとの分析に当たっては、大学全体としての状況を分析し、判断を行います。その際、観点到の性格・内容により、学部ごと・研究科ごと等の状況の分析が必要な場合には、それらの分析を踏まえて行います。

なお、特記すべき事項があると判断される学部・研究科等がある場合には、その取組を適宜記述します。

(3) 事項の評価

① 選択評価事項に係る目的に照らして、「観点到ごとの分析・判断」の結果を総合し、**水準判定を加味**した上で、4段階で判断します。その際、以下の「判断の際の考え方」を目安に、「判断を示す記述」を用いて、目的の達成状況の判断を行います。

判断を示す記述	判断の際の考え方
目的の達成状況が極めて良好である	観点到ごとの分析において、取組状況や活動状況が非常に優れており、目的に照らして達成状況が極めて良好であると判断される場合
目的の達成状況が良好である	観点到ごとの分析において、取組状況や活動状況が優れており、目的に照らして達成状況が良好であると判断される場合
目的の達成状況がおおむね良好である	観点到ごとの分析において、取組状況や活動状況に改善すべきところはあるが、目的に照らして達成状況がおおむね良好であると判断される場合
目的の達成状況が不十分である	観点到ごとの分析において、取組状況や活動状況に大きな問題があり、目的に照らして達成状況が不十分であると判断される場合

なお、選択評価事項C「教育の国際化の状況」の評価においては、「国際的な教育環境の構築」、「外国人学生の受入（学士課程／大学院課程）」、「国内学生の海外派遣（学士課程／大学院課程）」の各項目の水準について、以下の4段階で評価します。

判断を示す記述
一般的な水準から卓越している
一般的な水準を上回っている
一般的な水準にある
一般的な水準を下回っている

② 前記(2)「観点到ごとの分析・判断」の結果に基づき、事項ごとに「書面調査による分析状況」を検討します。

「書面調査による分析状況」は、最終的な評価報告書の「評価結果」の根拠となる